DMATの基本的機能・任務

災害急性期(発災からおおむね48時間前後)に以下の任務を遂行する。

・被災地域内での医療情報収集と伝達
・被災地域内でのトリアージ、応急治療、搬送
・被災地域内の医療機関、特に災害拠点病院の支援・強化
・広域搬送拠点施設（Staging Care Unit）における医療支援
・広域航空搬送におけるヘリコプターや固定翼機への搭乗医療チーム
・災害現場でのメディカルコントロール

※2　北海道DMAT

北海道では、平成19年に地震などの自然災害や大規模な交通事故等の災害現場で救命処置等を行う災害派遣医療チーム「北海道DMAT（Disaster Medical Assistance Team)」(以下「北海道DMAT」という）を設置し、速やかな対応を行うため指定病院と協定を結んでいる。現在15施設が日本DMAT隊員養成研修を受講し、そのうち11施設が北海道と協定を交わしている。

※3　EMIS（Emergency Medical Information System：広域災害救急医療情報システム）

災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼動状況など災害医療にかかわる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護にかかわる各種情報を集約･提供することを目的として開発された。DMATにとっては、個別の登録者に対して派遣要請や待機要請などが出され、またチームとしての活動状況や、共有すべき情報の掲示板など情報集約にとって欠かせないツールである。今回の震災でも活用され、全国のDMATを有機的につなぐことができた。ただし、沿岸部の被災地の情報をどれほど汲むことができたかは今後の評価が必要である。

EMISの機能（一部）[1)]

・災害時に最新の医療資源情報を関係機関（都道府県、医療機関、消防等）へ提供
・超急性期の診療情報（緊急情報）を即時に集約、提供
・急性期以降の患者受入情報（詳細情報）等を随時集約、提供
・DMAT指定医療機関から派遣されるDMATの活動状況の集約、提供

※4　SCU（Staging Care Unit：広域医療搬送拠点）

SCUとは、広域搬送を行うにあたり搬送拠点に設置される臨時の医療施設である。また被災地外からのDMATの参集拠点となる（**図1**）。今回の震災では、北海道チームが派遣された花巻空港に加え、霞目飛行場、福島空港が被災地内の搬送拠点（域内SCU）となり、また千歳基地、羽田空港、伊丹空港、福岡空港が被災地外の搬送拠点（域外SCU）となって全国の多くのDMATが活動した。

北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ例
パソコンをMacに変えたら使い方がよくわからない・・ご利用方法をご案内
プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・・・ご利用方法をご案内
光電話ってどうしたら使えるの・・・・・・・・・・・光電話についてご案内､取次ぎも可能
エクセルの使い方がよくわからない・・・・・・・・・一般的な使い方であればご案内可能
サポートに来てほしい・・・・・・・・・・・・・・・駆けつけ業者を手配します(有料となります)

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター（平日　10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00）
○TEL：　011-738-3401　　○E-mail：　support@hokkaido.med.or.jp